

資料・統計

2004 年産科分娩統計

Annual Report of Deliveries in 2004

児 玉 省 二 萬 歳 千 秋 富 田 雅 俊 海 部 恵 美 子
 笹 川 基 本 間 滋

Shoji KODAMA, Chiaki BANZAI, Masatoshi TOMITA, Emiko KAIBE
 Motoi SASAGAWA and Shigeru HONMA

要 旨

2004 年に当科で入院分娩した 85 例について、妊婦年齢、分娩様式、在胎週数個、出生体重、性差、アプガースコアなどについて集計報告する。

1. 分娩件数

表 1 に過去 12 年間に当科で取り扱った分娩件数を示す。年次的に分娩数は減少傾向を示すが、2003 年は 100 名、2004 年は 85 名で前年と比して減少した。

表 1 年次別分娩件数

年	分娩数
1993	358
1994	299
1995	277
1996	305
1997	282
1998	326
1999	196
2000	157
2001	139
2002	99
2003	100
2004	85

2. 妊婦の年齢分布、経産の有無

産婦の年齢分布を表 2 示す。年齢分布は 19 歳(2 名)～44 歳(2 名)で、平均 31.1 歳であった。初産婦は 41 名、経産婦 59 名で、初産婦は 25～29 歳が 17 名、30～34 歳が 12 名で、経産婦は 30～34 歳が 22 名で最も多い。35 歳以上の高齢初産婦は 4 名(10.5%)で、昨年約 4%より高くなった。

表 2 産婦の年齢分布

年齢分布	初産	経産	合計
～19	1	0	1
20～24	4	2	6
25～29	17	10	27
30～34	12	22	34
35～39	3	12	15
40～	1	1	2
合計	38	47	85

3. 分娩様式

表 3 に分娩様式を示す。正常分娩は 68 名で、吸引分娩 4 名、鉗氏分娩 2 名、帝王切開分娩 11 名(12.9%)であった。今年度は双胎分娩を経験しなかった。前回帝王切開分娩で、今回正常経膈分娩となった(VBAC)症例は 1 名であった。

表 3 分娩様式

	例数
正常分娩	68
吸引分娩	4
鉗氏分娩	2
帝王切開	11
合計	85

帝王切開の適応を表4に示す。帝王切開11名のうち、選択的帝王切開が1名、緊急帝王切開が10名に対して行われた。選択的帝王切開の内容は、既往帝王切開であった。緊急帝王切開は、いずれも胎児ジストレスが適応であった。

表4 帝王切開の適応

	例数
既往帝王切開	1
胎児ジストレス	10
骨盤位	0
本人希望	0
合計	11

4. 妊娠合併症

妊娠合併症を表5に示す。妊娠中の合併症は、甲状腺疾患2名（機能亢進症）、ベーチェット病1名、子宮頸癌Ia1期で円錐切除術既往1名であった。

表5 妊娠合併症

	例数
甲状腺疾患	2
ベーチェット病	1
子宮頸癌既往	1
中毒症	0
RH 不適合	0
合計	4

5. 在胎週数・出生体重・性別

在胎週数の分布を表6に示すが、正期産（37週0日～41週6日）は82名で大多数を占め、早産は1名、過期産2名であった。

表6 在胎週数

週数	初産	経産	合計
37週未満	0	1	1
37週	1	6	7
38週	4	8	12
39週	13	10	23
40週	16	12	28
41週	4	8	12
42週以上	0	2	2
合計	38	47	85

出生体重別では（表7）、最も多いのは3000g～3500g未満の37名で、次いで2500g～3000g未満の26名で、2500g未満の低出生体重児は7名（最小2008g）、4000g以上の巨大児は2名（最大4200g）であった。

表7 出生体重

	例数
2500g未満	7
2500～2999g	26
3000～3499g	37
3500～3599g	13
4000g以上	2
合計	85

性差では（表8）、女児が46名、男児が39名で、女児が多くなった。

表8 性差

	例数
女	46
男	39
合計	85

6. アプガースコア

出生1分後のアプガースコア別の例数を表9に示す。仮死の無い8点から10点は83名で大多数を占めた。仮死で5点の1名は、43歳、経産、中毒症合併、40週、吸引分娩、4690gであった。仮死で7点が1名、6点1名で、重症仮死を経験しなかった。

表9 アプガースコア

	例数
10～9	68
8～7	16
6～5	1
4～3	0
2～0	0
合計	85